

会議名称	平成27年度第2回平塚市スポーツ推進審議会
日時	平成27年(2015年)11月20日(金) 9時30分から11時15分まで
会場	平塚球場 会議室
委員数	15名
出席者 委員	14名 陶山正明、萩裕美子、田中國義、首藤幸子、浜田妙子、八田力、大高幸二、土佐明美、畔柳豪、市川正雄、大曾根俊久、細野文夫、中尾圭作、歌門俊雄
出席者 事務局	5名 鈴木社会教育部長、小泉スポーツ課長、市川課長代理、五島課長代理、植手主査

1 陶山会長あいさつ

【事務局】

平塚市スポーツ推進審議会規則第4条に規定する定足数は委員定数15名に対し、本日の出席者14名で過半数を超えているため、会議が成立することを事務局から報告する。

2 議題

(1) 平塚市スポーツ推進計画について

- ・ 平塚市スポーツ指導者制度(案)、平塚市スポーツボランティア制度(案)、平塚市スポーツ推進計画の進行管理について、事務局から説明。

○ 平塚市スポーツ指導者制度及び平塚市スポーツボランティア制度について

【事務局】

前回の審議会までで、指導者制度、ボランティア制度の運用方法や要綱の内容等を確認していただいた。その内容で登録者の募集から、運用を開始していきたい。

ただ、暴力団排除条例策定に伴う、暴力団排除について、要綱に明記した方が良いのではないかと、という意見が前回の審議会であったので、要綱の3条の2に追加した。内容、記述の仕方に関しては庁内の行政総務課法制担当と協議して確定した。

また、募集についても、前回の審議会の際に、公的施設等に登録募集を行うということで御説明させていただいたが、まず、各地区公民館、平塚市体育協会の公認スポーツ指導者宛てに登録周知を行いたいと考えている。

登録者の募集から、運用を開始していくことになるが、改善点などを随時見直しながら、審議会で意見を伺い、また、進捗状況を報告させていただく。

【会長】

変更点の確認、今後の流れの確認ということで良いか。

【事務局】

良い。暴力団排除についての行政総務課法制担当の見解としては、募集対象にその関係者がいる可能性が高い等の理由があれば、文言を追加することもあるが、基本的に条例があるので、要綱に盛り込む必要はないとのこと。ただ、委員からの意見や要綱をわかりやすくするために、今回は追加することとした。追加することに問題はない。

○ 平塚市スポーツ推進計画進行管理について

【事務局】

スポーツ推進計画の進捗状況の点検評価については、前回の審議会で、評価方法、各事業の進捗状況の一覧を御提示させていただき、公表する資料であれば、表現の方法を明確にした方が良く、客観的に判断できるものを用意した方が良く、など、いくつか御意見をいただいた。

今回、進捗状況一覧の記載内容の表現をわかりやすくしたものを各事業の実施部署と協議し、修正した。また、事業別に単純に成果を確認できる指標として、個別事業別進捗状況表を作成した。スポーツ推進計画の進捗状況については、ホームページなどで公表することになっているので、この内容で公表する予定でいる。

【会長】

特に説明するべき点はあるか。

【事務局】

スポーツ推進計画個別事業別評価表は各事業の進捗状況、成果が一目でわかる指標として作成し、進捗状況と成果の評価基準について、評価表の最下段に記載した。また、スポーツ推進計画事業評価一覧には、事業の目的、概要、取組の方向性など、より具体的な内容を記載している。

この二つをホームページ等で公表する予定でいる。

【会長】

事業別の記載内容、評価について委員の方々の御意見はいかがか。

【委員】

一つの事業を複数の団体が実施している場合の記載をわかりやすくした方が良いのでは。

【委員】

実施主体の記載に一つの団体名を記載するのではなく、等などの文字を追加してはいかがか。

【会長】

その他の意見はあるか。今後の課題点も出てくると思うので、検討していただきたい。

また、ボランティアする機会の提供については、事業をこれから実施するから、進捗状況として、遅れという評価になっているという理解で良いか。

【事務局】

良い。スポーツボランティアの活用について、評価表では進捗状況が順調という記載になっているが、事業開始をしていないので、遅れに訂正する。

【会長】

その他の意見はあるか。

【副会長】

実施主体欄は実施課だけでなく、実施課と実施主体とした方がよりわかりやすい。

【事務局】

訂正する。表記の細かい部分についても、見直しをして訂正する。

【事務局】

公表についてはホームページのみの公表とする。

【委員】

広報ひらつかにホームページに公表したことの告知はできないか。

【委員】

検討する。

(2) 平成27年度スポーツ課予算について

○ 補助金交付について

【事務局】

スポーツ団体への補助金交付状況については、団体補助、大会補助、事業補助の3つの分類となる。平塚市体育協会、平塚市体育振興連絡協議会、平塚レクリエーション連盟が団体補助の対象になっている。大会補助は、平塚市で行われる全国大会規模の大会が補助対象になり、事業補助はベルマーレスポーツクラブの指導者派遣事業、市内巡回授業・教室実施事業、スポーツ体験実施事業、交流大会実施事業に対して、補助している。

補助金の交付については、スポーツ基本法に従い、審議会の意見を伺いたい。

平成28年度予算については、全体として10%減額の見通しとなる。スポーツ課の予算編成について、事業関係は、少年少女大会、市総体、駅伝大会であり、現在のところ、廃止を考えている事業はないので、事業継続の中で削減できる支出に関して、可能な限り削減する予定でいる。また、既存施設に関する支出についても、施設を維持継続していくことになるので、支出を見直し、削減する予定でいる。

主な対応について、大会運営委託料、使用料は、大会開催に支障をきたすので、一部を除き減額なし。消耗品費、補助金、スポーツ推進委員報酬など10%目途に縮減する。プ

ール開放事業は、安全面を確保しつつ日数を10日から7日に縮減する予定。施設関係は、施設の長寿命化に対応するため施設修繕費の増額、施設管理委託料等は精査のうえ縮減する。

補助金について、団体及び事業補助は、10%を目途に縮減する。大会補助は、招致目的の経緯や他市の状況、財政状況を鑑みて10%以上の縮減を行うとともに段階的に縮減していくこととして考えている。

【事務局】

大会開催に伴う、会場使用料を助成する制度が平塚市まちづくり財団にあるので、活用していただきたい。

【委員】

平塚市まちづくり財団が行う、その助成については、一般市民を対象とした大会など条件がある。

【会長】

大会運営委託料、使用料は、大会開催に支障をきたすので、一部を除きとの説明だが、一部は既に確定しているのか。

【事務局】

実行委員会形式で実施している少年野球、駅伝大会について、10%ではないが、若干の減額を予定している。

【会長】

スポーツ推進計画の趣旨に基づいた、まちづくりを実施するためにも、予算については考慮いただきたいところだが、委員の方の意見はいかがか。

【委員】

行政の財政事情も考慮すると、仕方がない部分もあるが、一律10%の減額の考え方はいかがか。新規の事業については減額しない、実績のあった継続事業については減額しないなど、めりはりのある予算編成が必要なのではないか。

【委員】

委員報酬等の減額も予定されているが、委員報酬の効率的、公平的な配分を検討していた部分もあるので、削減については、財政事情を考慮すると仕方がないと考える。

【事務局】

委員報酬の配分については、基本報酬と研修会等の出席に伴う、加算報酬とに分け、委員に効率的に配分し、予算削減につなげる予定でいる。

【委員】

例えば、プール開放事業について、日数の縮減ではなく、場所の削減等も検討していただき、予算削減につなげてほしい。また、一律予算削減ではなく、青少年育成等には配慮していただきたいと考える。

【会長】

財政状況もあるので、めりはりをつけた予算編成を実施していただき、スポーツ推進審議会としても、青少年の体力向上は重要なものであるという意見としたい。

(3) 市民総合体育大会について

【事務局】

市総体の現状と市総体のあり方について、以前、審議会で行った提言書の概要と、その提言書の対応結果についての資料を添付している。今回改めて、審議会の中で、市総体のあり方について、今年度も視察を行っていただいているので、視察も含めて、お気づきになられた点、運営方法、種目、特に提言書に対する対応結果の一部実施、未実施について御意見いただきたい。

【会長】

例えば、未実施の大会の見直しについて、大会終了後の見直し機会を設けていないということであるが、いかがか。

【事務局】

大会主管団体などとの反省点を伺う機会はあるが、参加者からの直接の声は伺っていない。

【副会長】

参加者からのアンケート等を実施できない理由は何か。

【事務局】

アンケート実施の効果があるのかという懸念と、参加者数が多いので、アンケートの集計作業の事務処理の問題がある。

【委員】

市総体に関しては、種目により会場が別々だったり、参加者も常連が多いので、アンケートの実施効果は低いのではないか。

【副会長】

アンケートの実施で何を調査したいのかが重要。市総体にどんな問題があるのかを整理して、市民の声を聴く必要があるということであれば、調査したい内容のアンケートを作成し、集計するには東海大学の学生を利用して集計する等の方法もある。市民の声を聴かずとも、問題点を改善する方法があれば、それで良い。参加者からのアンケートは効果が低いのであれば、参加していない市民に対するアンケートは必要となる可能性もある。市総体の問題点をもう少し詰める必要がある。

【会長】

他の委員の方の意見はいかがか。

【委員】

参加していない市民に対するアンケートは効果があると考えます。参加していない市民

から見ると、市総体自体を知らない参加者も多い。また、昔からある大会なので、当初に始めた目的等も薄れつつあることも考えられるので、継続する事業かも含めて再確認する必要がある。

【委員】

継続はしていただきたい。ただ、地域によって参加者数や参加意欲も隔たりがあるので、それについては検討する必要がある。

【会長】

市総体は継続していただきたいが、参加していない市民をどのように参加させていくかなども検討する必要がある。

【会長】

個人負担が伴う種目もあるが、参加者の意見はあるか。

【事務局】

導入当初は、意見はあったが、現在は特に問題はない。

【会長】

予算の問題もあるが、継続事業として御努力いただきたい。

3 その他

(1) 9月市議会について

【事務局】

常任委員会で質疑がありましたので、要旨を説明する。夜間照明施設の点検を行うため、増額補正をすることについて、点検の具体的な内容、実施校はどこかとの質問があり、支柱部分の打音検査、電気関係で絶縁、点灯、動作試験、照明器具等のボルトの締め付けなど、実施校は、旭小学校、真土小学校、横内小学校、浜岳中学校、八幡小学校の5校を予定と回答した。また、今回の5校以外の点検状況、結果はどうだったか、計画的な補修や点検が必要だが、今後どう考えているかとの質問には、26年度に江陽中、太洋中、27年度に金目中、大住中で実施、結果は、支柱部分は問題ないと報告を受けている。灯具のガラスにひびがあるものや安定器の不具合などがあったとのことで、今後修繕で対応する予定である。今後も定期的に点検を実施していきたいと考えている

また、26年と27年に実施している点検の違いは何か。LED化についてどう考えているか、との質問には、26、27年と4校の点検をしたが、設置場所によって状況が違っている。比較的良好な施設もあれば、海側では塩害の影響を受けている施設もありまちまちである。今後施設の改修となった場合には、LEDへの変更も考えていきたいと回答した。

(2) 2020年東京オリンピック・パラリンピックについて

【事務局】

2020年の東京オリパラ開催に伴い、少しずつ、神奈川県や市町村で動きもあるので、情報提供する。

ホストシティタウン構想について、政府は2020年東京オリパラ開催に伴い、ホストシティタウン構想の推進を打ち出している。ホストタウンシティ構想とは、「東京オリパラ開催に向けて、全国の自治体とオリパラ参加国、地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図るとともに、スポーツ立国、共生社会の実現、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、「ホストシティ・タウン構想」を推進する。」という内容のもの。平塚市の状況も詳細等がわかり次第、審議会において、情報提供する。

次に事前キャンプ誘致について、エリトリアと神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループで事前キャンプに関する協定がなされた。誘致国がエリトリアになった経緯は星槎グループが、職業訓練等でエリトリア独立直後から支援をしていた関係でつながりがあったとのこと。また、平塚市の事前キャンプ誘致についても、組織体制、取組の方向性等、具体的にわかり次第、情報提供する。

【会長】

事前キャンプ誘致について、平塚市の取組についても今後、情報提供いただきたい。

(3) その他

【事務局】

平塚市出身の朝弁慶が新十両に昇進ということで、資料を添付している。平塚市では積極的に応援していく。そのほかに、柔道で平塚在住の五十嵐莉子さんが世界ジュニア柔道選手権、バレーボールで旭クラブがママさんバレーの全国大会、スポーツ課の事業の手話ダンス教室に通う生徒が手話パフォーマンス甲子園、空手で平塚神空会の拳士がアジア、オセアニア空手道選手権、近藤選手が世界ボディボード選手権に出場などで、市長表敬訪問をした。

4 閉会